



平成 17 年 12 月 20 日

各 位

会社名 日本化薬株式会社
代表者名 代表取締役社長 島田紘一郎
コード番号 4 2 7 2 (東証)
問合せ先 執行役員
グループ管理本部経理部長 浅川幸久
TEL (0 3) 3 2 3 7 - 5 2 7 0

業績予想の修正に関するお知らせ

平成 17 年 9 月 27 日の第 1 四半期決算発表時に公表した平成 18 年 5 月期 (平成 17 年 6 月 1 日 ~ 平成 18 年 5 月 31 日) の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 18 年 5 月期中間業績予想数値の修正 (平成 17 年 6 月 1 日 ~ 平成 17 年 11 月 30 日)

(1) 連結業績予想の修正

(単位: 百万円)

| | 売 上 高 | 経 常 利 益 | 当 期 純 利 益 |
|-----------------------|---------------|--------------|--------------|
| 前 回 発 表 予 想 (A) | 66,600 | 6,600 | 7,100 |
| 今 回 修 正 予 想 (B) | 68,400 | 7,900 | 7,700 |
| 増 減 額 (B - A) | 1,800 | 1,300 | 600 |
| 増 減 率 (%) | 2.7 | 19.7 | 8.5 |
| 前期実績 (平成 17 年 5 月期中間) | 66,196 | 4,935 | 1,891 |

(2) 単独業績予想の修正

(単位: 百万円)

| | 売 上 高 | 経 常 利 益 | 当 期 純 利 益 |
|-----------------------|---------------|--------------|--------------|
| 前 回 発 表 予 想 (A) | 47,600 | 3,700 | 6,500 |
| 今 回 修 正 予 想 (B) | 49,000 | 4,800 | 2,300 |
| 増 減 額 (B - A) | 1,400 | 1,100 | 4,200 |
| 増 減 率 (%) | 2.9 | 29.7 | 64.6 |
| 前期実績 (平成 17 年 5 月期中間) | 46,916 | 2,843 | 1,616 |

2. 平成18年5月期通期業績予想数値の修正（平成17年6月1日～平成18年5月31日）

(1) 連結業績予想の修正

（単位：百万円）

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|----------------|----------------|---------------|--------------|
| 前回発表予想（A） | 140,600 | 13,700 | 9,100 |
| 今回修正予想（B） | 141,600 | 13,700 | 9,100 |
| 増減額（B - A） | 1,000 | 0 | 0 |
| 増減率（%） | 0.7 | 0.0 | 0.0 |
| 前期実績（平成17年5月期） | 134,205 | 10,399 | 5,315 |

（参考） 1株当たり予想当期純利益（通期） 50円03円

(2) 単独業績予想の修正

（単位：百万円）

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|----------------|----------------|--------------|--------------|
| 前回発表予想（A） | 98,900 | 7,300 | 7,000 |
| 今回修正予想（B） | 100,700 | 8,100 | 2,800 |
| 増減額（B - A） | 1,800 | 800 | 4,200 |
| 増減率（%） | 1.8 | 11.0 | 60.0 |
| 前期実績（平成17年5月期） | 97,761 | 7,308 | 4,764 |

（参考） 1株当たり予想当期純利益（通期） 15円39円

3. 中間期業績予想修正の理由

（連結）

当中間期の連結業績は、売上高および利益とも前回予想を上回る見込みです。
通期見通しは、中間期実績を織り込み売上高を上方修正しております。

（単独）

当中間期の経常利益は、機能化学品の売上増および販管費の節減などにより営業利益が増加したこと、更に円安の影響で為替差益があったことなどにより、前回予想を上回る見込みです。

当期において、財務状況の悪い米国子会社の株式および同社に対する貸付債権の評価の見直しを行った結果、当該子会社の業績は今後回復すると判断しているものの、財務状況の改善に至るまでにはもう少し時間を要することもあり、財務の健全性の観点から投資損失引当金(3,631百万円)および貸倒引当金(1,302百万円)を設定することといたしました。この結果、当期純利益は前回予想を大幅に下回る見込みです。また、当該子会社は連結子会社であり、これによる当期の連結業績への影響はありません。

通期見通しは、中間期実績を織り込み売上高および経常利益を上方に、当期純利益を下方にそれぞれ修正しております。

以上